

大障教ニュース

大阪府立障害児
学校教職員組合
大阪市天王寺区
東高津町7-11
府教育会館704号
TEL 06-6765-8904
FAX 06-6765-8905

9条改憲・大軍拡・大増税を許さず、憲法を生かした平和な社会の実現をめざそう

「過大・過密」「教室不足」「教員不足」解消にむけた新校建設運動を大きく飛躍させよう！

みんなでつくる分会活動を推進し組織拡大を大きくすすめよう！



あいさつする
西面委員長

大会あいさつで西面委員長は、ロシアのウクライナ侵襲、イスラエルによるガザへの攻撃、日本政府と一部野党による軍備増強や核共有についてふれ、障害児教育は平和な社会でないと成り立たない。自身が組合員であり続けている根っこには「平和」への要求があると述べました。

そして、深刻化する長時間労働、教育の「穴あき」、障害児学校の「過大・過密」などの課題解決に向け、「組合だからこそ実現できること」はたくさんあると強調しました。

最後に、7月の参議院選挙で、「戦争する国」づくりを許さず、すべての人が大切にされる社会、憲法を生かした平和な社会の実現、子どもたちの教育の充実、私たちの要求を実現するため、全ての教職員に対して、参政権の積極的な行使を呼びかける運動をつくらうと訴えました。



声高らかに力強い団結がばらう

子どもたちの未来のために、「平和」を求める声をあげよう

大障教は5月17日、定期大会を開催しました。荒谷書記長が経過報告および運動方針案を提案し、討論では9分会4専門部の13人が発言しました。議案は、すべての執行部提案が圧倒的多数の賛成で決定されました。大会には、大阪の障害児教育をよくする会の会長が連帯のあいさつをおこない、メッセージが多数寄せられました。

2025年度大障教定期大会

大阪府教員採用選考受験は職務免除に！

◆提案内容

1 提案理由

講師等が採用選考を受験しやすい環境を整え、受験者の確保を図るため、大阪府教育委員会が実施する採用選考の受験に関するサービスの取扱いについて定める

2 サービスの取扱い

大阪府教育委員会が実施する採用選考を受験する場合、必要と認める期間又は時間について、職務を専念する義務を免除する

3 実施日

2025年6月20日

4 協議期間

2025年6月11日

5月15日、府教委は大障教・大教組に対して「大阪府教員採用選考等受験に関するサービスの取扱いの変更について」の提案を行いました。

今回の変更は、大障教・大教組がかねてより要求していた「年休ではなく、職務免除を行うべき」との主張が実現したものです。「常勤講師」だけでなく、「非常勤講師」や入計年度任用職員にも適用されます。

一方、職務免除の対象が、「大阪府が採用した講師等」としていることは問題であり、引き続き改善を求めます。協議期間は6月11日までです。大障教に要望・意見を集中してください。

憲法と子どもの権利条約に立脚した障害児教育の実現を

障害児教育の実現を

荒谷書記長は、経過報告と運動方針案の提案で、地域の粘り強い運動により、寝屋川市議会でも「寝屋川支援学校の過大・過密、教室不足の解消を図り、教員の適切な配置を求める意見書」が、東大阪市議会でも「東大阪市に小学部・中学部・高等部の3学部を設置した府立知的障害が支援学校の新設を求める意見書」が全会派一致で採択されたことと触れ、「子どもたちにあたり前の学習環境を、そのために父母と共同の運動をつくらう」と呼びかけました。

また、当面のとりくみとして、①大阪の障害児教育をよくする会と共同した教育条件整備の運動、②2026年度府予算にむけた文部科学省概算要求に対する署名、③教職員増を求める署名、④教育実践交流会のとりくみ、⑤すべての職員・教職員の大規模賃金引上げなどを求める署名などを提起し、すべての組合員が力をあわせ大障教組織の一割拡大を実現しようと呼びかけました。

書記局の つうしん

つうしん

「みんなで知恵を出し合い、ステキな学校（本校）にしたい」「小学部でも児童10人の圧縮学級」「過大・過密」の解消には学校建設しかない」「支援学校で学ぶ子どもたちの劣悪な学習環境の実態を議員に知らせ、寝屋川市と東大阪市で『支援学校建設を求める意見書』を採択」「仕事が多すぎて教材研究や授業準備が後回し。教員増やして働き方を変えよう」「なくてはならない看護士なのに雇用継続の不安や待遇が劣悪。定数外配置と待遇改善を」「万博遠足押し付けの裏で耐震基準やメタンガスが不安で万博遠足に行けない子ども」――先日、大障教定期大会が開催され、運動方針（案）を補強する立場で分会・専門部から多彩な発言がありました。

「子どもたちのためにいろんなところでがんばっているみなさんの姿に感動」「仕事が終わらないのは自分のせいだと思っていた。みんなで働き方を変えていきたい」これは、大会初参加者から寄せられた感想です。大会発言や参加者の感想から勇気と元気をもらって同時に日本政府がもっと教育にお金をかけなければいけないと一段と強くなりました。

日本の教育予算はOECD諸国中、最低レベルで、GDPに対する公財政教育支出の割合は2.90%（OECD平均4.15%）です。2025年度府予算を見ると、文科専算は5兆5094億円、一方防衛専算は、8兆6691億円。ともに5兆円規模で推移してきましたが、アメリカの意を汲み、ここ数年で大軍拡路線をとっています。7月には参院選があります。「戦争する国」づくりをすすめるのか、教育やくらし優先の政治をすすめるのか。

私たちの一票で政治は変えられます。

大障教ホームページアドレス <http://fc06631220171211.web2.blks.jp/> Eメールアドレス: fushoukyou_1@mtb.biglobe.ne.jp

子どものことを語りあい、発達を学びあう大切さを実感

大障教新歓教研「みんなでつくるわくわく実践 子どもの発達・ねがいと授業づくり」

大障教は5月10日に新転任歓迎教研をオンライン併用で開催し（会場・たかつガーデン）、川地亜弥子さん（神戸大学大学院教授）が「みんなでつくるわくわく実践、子どもの発達・ねがいと授業づくり」と題して講演しました。川地さんは、実践例を紹介しながら、創意工夫ある授業実践と子どもの成長を語りました。

「突き抜けた楽天性」



講師の川地亜弥子さん

「子どもと過ごす学校という場は、本来、楽しいことが日々あり、わくわくする場所」と切り出した川地さん。「けれども、わくわくする部分が学校のなかに

失われてきているのではないかと問いかけます。いま学校現場では、学習指導要領を守っているかとチェックされ、教師は「うまくやらないければ」と日々焦らされている。なかまのなかで立ち上がってくる元気を、川地さんは「突き抜けた楽天性」を名付けています。そして、川地さんは「この楽天性は

を挙げました。失敗を含めてなかまに語り合うなかで、さまざまヒントが見つかり、失敗を乗り越えて、「明日こんなことをやってみよう」と展望が開けてくる。なかまのなかで立ち



話に聞き入る参加者

仲間のいないところでは成立しません。組合の大切さの一つはそこにあるのではないのでしょうか」と語りました。

子どものことを語り合い、考えよう

川地さんは、こんにちの学校教育の危うさとして、

「上からの目標管理」をあげました。本来目標とは、子どもと向き合っている先生が吟味して、作りだしていくもの。しかし、現場が忙しく、目標をじっくり考え、授業を工夫する余裕がなくなっています。

「与えられた目標と与えられた教材」だけの実践になってしまいう危険性について川地さんは話をすすめ、「大きな戦争につながったかつての教育を繰り返さな

「子の看護休暇」の取得要件が拡大されました



【内容】

昨年度の府労組連秋季闘争の「最終回答」で改善を勝ち取った「子の看護休暇の取得事由の拡大」が4月より開始されています。取得できる対象年齢などは変わりませんが、取得事由について「入園・卒園式、学校保健安全法に基づく学級発表、子どもと参加する教育または保育に係る行事」でも取得できるようになりました。

【具体的運用について】

取得事由に関して、「学校からの連絡通知の提出は必須でない」ことを大阪府に確認しています。また、取得については「宅発・宅着出張と同様の考え方」です。したがって、当該行事等に参加する際の移動時間も含めて取得できます。

子どもの要求・ねがいを実践の出発点に

川地さんは、自閉スペクトラム症のよしと君が偏食を克服していく過程を詳しく紹介しました。よしと君は白いご飯とデザートしか食べられませんでした。担任の小松先生は、「クラスの子たちと同じように給食を食べたい」という、よしと君の本当の願いをとりえま

いようにしなければなりません」と力説。「子どもたちが自分で考え、みずから行動する力を付けていく」ことを学校教育のなかで大

切にしようと呼びかけました。

加えて、川地さんは、学校現場に子どものことを語り合えるゆとりを生み出すための教職員増、少人数学級の必要性について言及しました。

きます。

川地さんは、よしと君の事例を通して、子どもの目に見える姿の奥にある本当の願いを汲み取り、実践の出発点にすることの大切さを強調しました。

参加者の感想

- よしとくんの話、偏食のことなども参考になりました。発達論のない目標設定にならないよう気をつけたいです。
- 子どもの立場や気持ちに「心を寄せる」ことを大切にしようと思いました。
- こどもの様子をじっくり話し合っ共有する時間や余裕を奪われてしまっています。こどもの要求が何かは、一人だけでは気付けません。多面的な意見を共有しながら相談できたり、色々試したりしていくことが大切だと思いました。
- 子どもの内面の気持ち、考え方、本当のねがいを垣間見ることができ、とてもいい時間でした。子どもも自分も「わくわく」する、できる実践に目をむけて、月曜日から楽しんでいきたいと思います。
- 子どもとかかわる中で「子どもがわくわくする活動」として、日々職員同士で話し合っています。同僚の大切さや、子ども同士のかかわりなど、改めて考えさせられ勉強になりました。